

令和 8 年度 新潟市 英語教育改善プラン

「言語活動を通じた指導」により、英語を学び続ける自立した学習者を育てる。

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①新潟市生活・学習意識調査の結果から「外国語の授業が好きです」と肯定的に回答した 5、6 年生が増加した。
(R6:65.9%⇒R7:70.0%)
②単元のゴールを児童と共有して、必然性を持たせて言語活動を行っている授業が授業参観から多く見られた。

未だ改善が必要な点

①新潟市生活・学習意識調査の結果から「外国語の授業がよくわかります」と肯定的に回答した 5、6 年生が減少した。
(R6:82.2%⇒R7:80.2%)
②ALTを活用して言語活動をすることで、さらに児童の資質・能力を伸ばさせる必要がある。

2. 要因分析

①②について、外国語専科研修会やETS研修会で、単元終末の児童の目指す姿を中心に据えた単元デザインをした授業構成の大切さを、繰り返し伝えている。

①児童が自己決定する場面を増やすこと等により「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をはかる必要がある。

②教員のALTの活用についての意識に、個人差がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②言語活動を通じた指導による資質・能力向上の推進
外国語専科研修会や新潟市小学校教育研究協議会と連携して、児童が必然性を感じ、主体的に取り組む言語活動の重要性を継続して確認する。

①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の推進
外国語専科研修会や新潟市立総合教育センターが主催する教科研修、計画訪問で、児童が主体的に学習するための自己決定の場面を増やす重要性などを継続して伝える。

②ALTがJTLとのチーム・ティーチングで、児童の学習への動機づけを強化したり、資質・能力を向上させる有効な役割分担などを伝えたりする研修会を今年度も 2 回実施する。さらに、外国語専科研修会やETS研修会で、ALTの有効な活用の方法を伝えたり、好事例を共有したりする。

※新潟市の児童生徒の英語力の実態と課題を把握し、英語力向上のための手立てを検討する「新潟市英語力向上推進会議」を昨年度に立ち上げ、今年度も小中高で連携した議論・提案・取組を継続する。

令和 8 年度 新潟市 英語教育改善プラン

目標

「分かる・できる」喜びや達成感を感じ、自分に合った学び方を身に着けることができる授業を通して、自立した学習者を育てる。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：37.3％⇒R8：45.0％）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業において、「人との文字でのやり取り（電子メールやSNS、チャット等）」を実施した学校の割合で増加が見られる。
（R6:15.8％⇒R7:24.6％）
②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、R5と比べてすべての項目で数値の増加が見られる。（聞いて概要や要点をとらえる：84.0％⇒88.8％、読んで概要や要点をとらえる：85.9％⇒91.0％、即興で伝えあう：69.8％⇒76.2％、まとまった内容での発表：85.9％⇒89.4％、自分の考えや気持ちを書く：86.3％⇒88.6％）

未だ改善が必要な点

①英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒数の割合が、全国平均の半分程度である。
（R6:18.7％⇒R7:20.2％）
②CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒数の割合が全国平均の半分程度である。
（R6:13.1％⇒R7:16.8％）
③CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合で減少が見られる
（R6:21.4％⇒R7:20.5％）

2. 要因分析

①新潟市全体の取組として1人1台端末の活用を推進し、生徒と教師の両方で積極的に端末を活用しているためであると考えられる。
②教育委員会、新潟市中学校教育研究会が進めてきた「学習タスク→練習タスク→評価タスク」の形が定着し、「練習タスク」や「評価タスク」として発展的な活動に取り組む学校が増えたためであると考えられる。

①②英検の準会場など、学校で外部試験を受ける機会が減ったことが要因の1つとして考えられる。
③教育委員会としてMEXCBTを用いた測定尺度を示したが、実施率が低く、客観的な見取りができていない面があると考えられる。
②③言語活動を中心とした授業づくりの推進に向けて、さらなる改善の余地がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①各校における組織的な取組の推進
各校で組織的な取組を進めるため、英語科主任研修会にて、各校での取組を共有する。
②活動内容の見直しの推進
生徒の英語力を高めることができる活動にするため、教育委員会が選択して配信したMEXCBT問題を参考にし、一人ひとりの教員が活動内容や評価規準の見直しを行う。

①外部試験の機会提供の推進
生徒が自分の英語力を客観的に判断するため、すべての中学校において、英検IBAを受検できるように機会の提供を行う。
②研修機会の推進
教員の授業力を高めるため、新潟市立総合教育センターと連携して、研修会を行う。
③MEXCBT活用の推進
教員が客観的に生徒の英語力を判断するため、教育委員会が毎月MEXCBT問題の配信を行い、活用を促進する。

※新潟市の児童生徒の英語力の実態と課題を把握し、英語力向上のための手立てを検討する「新潟市英語力向上推進会議」を昨年度に立ち上げ、今年度も小中高で連携した議論・提案・取組を継続する。

令和 8 年度 新潟市 英語教育改善プラン

中高6年間を見通した指導を柱とした授業を通して生徒の自己発信力を高め、自立した学習者を育成する。

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 96.2%、B1以上 34.2% ⇒ R8 : A2以上 98%、B1以上 40%)

☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加した。
(R6:27.3%⇒R7:34.2%)
- ②CEFR B2レベル以上の英語力を有する英語担当教員の割合が増加した。
(R6:81.8%⇒R7:88.9%)

- ①授業における発話の半分以上を英語で行っている教師の割合が減少した。
(R6:76.0%⇒R7:70.6%)
- ②R6英語教育実施状況調査より、授業中の言語活動において「話すこと」にかかる時間が他領域と比べて少ない。
(「聞くこと」:2.04、「読むこと」:2.20、「話すこと[やり取り]」:1.56、「話すこと[発表]」:1.56、「書くこと」:2.64)

2. 要因分析

- ①中高対象の外国語科授業づくり研修会において、「言語活動の充実と英語力向上の強い相関関係」、「指導と評価の一体化に基づくパフォーマンステストの工夫」について研修をしたことで、生徒の英語力向上につながった。
- ②各学校の英語科内において、指導力向上の必要性が十分に共通理解されたことで、英語担当教員の英語力向上に向けた組織的な取組につながった。

- ①授業における英語を使った指示の出し方や発問の仕方に関する研修の機会が十分でなかった。
- ②授業における一斉指導の場面において、受信技能（聞くこと・読むこと）に焦点を当てた言語活動に割く時間が発信技能（話すこと・書くこと）に焦点を当てた言語活動に割く時間よりも多くなった。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①授業づくり研修の継続と充実
パフォーマンステストに向けた指導と実際の評価等、生徒の自己発信力の向上のために求められる指導と評価についての理解を深める。JTLとALTが協働で授業づくりに取り組み、チーム・ティーチングの質的向上を推進する。
 - ②英語担当教員の英語力向上の取組支援の継続
文部科学省初等中等教育局教育課程課外国語教育推進室による「小・中・高等学校教員を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度」の活用等、必要な情報を学校に提供し、英語担当教員の英語力の一層の向上につなげる。
 - ③英語担当教員の授業力向上のための組織的取組の推進
授業（特に「論理・表現」）における教師の英語発話量を確保するために、中高対象の外国語科授業づくり研修会において、指示や発問の仕方について研修する機会を設ける。
 - ④言語活動における5領域のバランスとICT機器の活用の推進
主に発信力を高める科目である「論理・表現」での言語活動における生成AI活用を推進し、個別最適化された学習支援の充実を図る。
- ※新潟市の児童生徒の英語力の実態と課題を把握し、英語力向上のための手立てを検討する「新潟市英語力向上推進会議」を昨年度に立ち上げ、今年度も小中高で連携した議論・提案・取組を継続する。

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

新潟市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		90	83	90	80.2	90	96.2	98		98	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		90	21.5	90	27.3	90	34.2	40		40	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	68.8	100	76	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		80	43.8	80	68	80		80		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	0	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	33.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		100	82.4	100	81.8	90	88.9	100		100	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	43.8	100	76	90	70.6	95		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		55	36.2	50	34.5	50	37.3	45		50	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		85	72.5	85		90		95		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	79.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	98.2	100		100		100		100	
		公表(%)	70	63.2	70		75		80		85	
		達成状況の把握(%)	90	78.9	90		95		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		42	41	45	39.5	45	60.3	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		85	67.3	85		85		90		95	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	75	81.1	85		90		95		100	
		公表(%)	45	45.3	50		55		60		65	
		達成状況の把握(%)	65	59.4	65		70		75			